

長浜米原地域医療支援センター 事業報告 2018

専門員 今井 享子 池野 さち子

事業内容の詳細はホームページに掲載しています
<http://www.chiikiiryuu.com>



在宅医療・介護連携推進事業の8事業

◆具体的な8つの取り組み内容 前年度同様、長浜市・米原市から（イ）（ク）以外を受託

ア

- 地域の医療・介護資源の把握

イ

- 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討→→行政

ウ

- 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進（医師会と共催）

エ

- 医療介護関係者の情報共有の支援

オ

- 在宅医療・介護連携に関する相談支援

カ

- 医療・介護関係者の研修

キ

- 地域住民への普及啓発

ク

- 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携→→行政

(ア) 地域の医療・介護資源の把握

- ・ 29年度にリニューアルしたホームページに新着情報を公表
- ・ 随時、長浜保健所や両市から新規・変更届の報告を受け ➡ 月1回データー更新

2017年度／月	件数	2018年度／月	件数
		4月	186
		5月	225
		6月	237
		7月	169
8月	198	8月	354
9月	166	9月	212
10月	429	10月	268
11月	346	11月	223
12月	307	12月	206
1月	223	1月	208
2月	197	2月	214
3月	254	3月	224
	2120		2726

ホームページへのアクセス数

ケアマネジャーや地域
包括支援センターでは
利用者や自分の資料と
して活用



(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

◆湖北医師会の老人保健部と共催で定例の在宅医療診療所連携推進検討会議（1回／2か月）

＜目標＞

人生の最終段階において希望する場所で看取りを実現するために ～連携システムの構築～

＜戦略＞ 一人医師診療所（80％）のバックアップ体制構築・連携システムとルール化

日時	参加者	協議内容	結果と方向性
9月6日（木） 18：00～20：00	医師会メンバー 6人事務局3人	課題の洗い出しと情報共有	診療報酬関係の確認 医師会事業として取り組み
11月1日（木） 18：00～20：00	医師会メンバー 4人事務局3人	連携の方法・緊急訪問時の課題・先進地の情報収集・視察よりも講師を招聘 彦根保健所から湖北医師会と情報交換を申し出	連携システムの見える化 看取り期に限定 近隣エリアでグループ化 説明書の作成 協力医の限界を明記
1月24日（木） 18：00～19：00	医師会メンバー 4人事務局2人	講演会の進行について 座長：松井先生 湖北の実情や課題を事前に講師へ情報提供 参加案内：湖北医師会会員・病院連携室・行政 訪問看護師・ケアマネ・近隣圏域医師会・保健所	近隣圏域に声かけ 様式作成に際し近畿厚生局に情報提供しておく
2月28日（木） 18：00～19：30	医師会員と 関係職種	あおぞら診療所の川越先生から「在宅医療における診療所間の連携～在宅医療のスタートアップ支援」の講演と湖北地域の実情に合わせたアドバイス	医師18人・多職種17人が参加し松戸市医師会の取り組みを拝聴。 今後の取り組みの糸口になった

(工) 医療介護関係者の情報共有の支援



- ・ ITの認知度は増加しているが利活用には程遠い
- ・ 全体普及しないと使い勝手が悪い

医療情報連携ネットワーク協議会等共催
〇びわ湖あさがおネット利用操作研修会
(兼IDパス取得説明会)

第1回：平成30年9月13日（木） 第2回：平成30年11月1日（木）
〇成功事例の発表会に向けて情報収集



長浜市・米原市と共催で**ケアマネジャー対象（93人）**に
「**地域の情報共有等に関するアンケート**」実施（10月29日）
当センターHP閲覧の有無やびわ湖あさがおネットの利用状況、
情報共有の手段など（一部抜粋）

当センターのHP閲覧の有無		医療と介護の情報共有の手段 (複数回答)		びわ湖あさがおネット利用の有無	
有	41%	面談	84人	有	28%
無	59%	電話	77人	無	72%
・ 在宅医療や介護事業所の一覧を確認 (23人) ・ 研修予定 (16人) ・ 研修資料を見るため (4人)		メール	9人	・ 登録患者情報共有 (20人) ・ メール機能 (14人) ・ 知らない (4人) 知っていても 利用してない (64人) ・ 複数事業所への情報提供が大変 ・ 連絡のタイミングが合わない	
		その他	9人		
		・ 主治医面談の調整困難・待ち時間 ・ 医療機関によって対応格差			

(才) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

合計：11件+a

項目（依頼職種）	件数	内容
研修講師の依頼	3件	介護サービス部会から「看取りケア」について講師依頼 県と近江八幡市から「もしバナゲーム」について依頼 近江八幡市の市民講座は圏域外のためお断りする
療養相談	2件	高齢患者の透析導入について地域包括支援センターから相談内容の報告を受ける （息子➡地域包括支援センターへ） 老老介護に加えて、がんターミナル期を迎える療養生活の不安。根底にはケアマネさんとのコンタクト不足があり、地域包括支援センターで相談するように促した。
病児ケア児 GH設置の相談	1件	長浜市の障害児を持つ親からGH開設（法人）についての相談を受けた県会議員から相談 （29年度健康推進課からも同内容の相談を受けた）
難病患者の在宅サービス （湖北会の看護師）	1件	今回、気切で人工呼吸器利用になる30代の難病患者の在宅サービスについて問い合わせ。 京大から市立長浜病院に転院予定の為訪問看護STと情報交換する。人工呼吸器使用の場合は訪問回数に制限がなく、2か所のSTで対応予定。今後、吸引手技を習得させ拡大カンファレンスで退院調整の方向性
訪問歯科診療所の紹介 （ケアマネジャー）	1件	歯科マップを見て訪問歯科診療をお願いするが「していない」と断られたという。県への届け出と実際が違う事が判明、問い合わせ先が歯科医師会事務所も4時間勤務のパート職員にて対応困難さが伺えた。システム不足
急変時対応の問い合わせ （他県の介護士）	1件	HPの研修会資料を閲覧し、高齢者の窒息時対応についてタッピングはNGとあるが調べても背中を叩くのは有効とありどうなのか？講師に確認しハイムリッヒ法を説明する

(才) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

合計：11件＋α

項目	件数	内容
点滴針がプラごみに混在した事例報告があり在宅医によっては、廃棄の方法に差がある（訪問看護師）	1件	以前にインスリンの針などが不法投棄された問題から、医師会と長浜市・米原市の環境保全課と湖北広域行政事務センター業務課が話し合い、「在宅医療をご利用の皆様へ～在宅医療廃棄物」の出し方について手順書を配布した経緯がある。このことを基本に医療機関への返却を徹底してもらうように理事会にかけ定例会で周知された。依頼者に経過を報告。
かかりつけ医・訪問看護STの紹介依頼	1件	先天性バイラー病で3歳の時に京大で肝移植を受け以後31歳になるまで京大で加療。今回小腸機能不全にてCVポート作成されたのを機に訪問診療をされる開業医を紹介依頼。バイラー病に関連して長浜日赤の耳鼻科に通院している事から連携室に相談し開業医を紹介した。
その他	数件	専門職や市民から「エンディングノートを欲しい」と要望があるが、在宅医療普及啓発の為の出前講座資料として配布している事を了解してもらい、HPから印刷できることを説明 行政機関に資源情報の提供

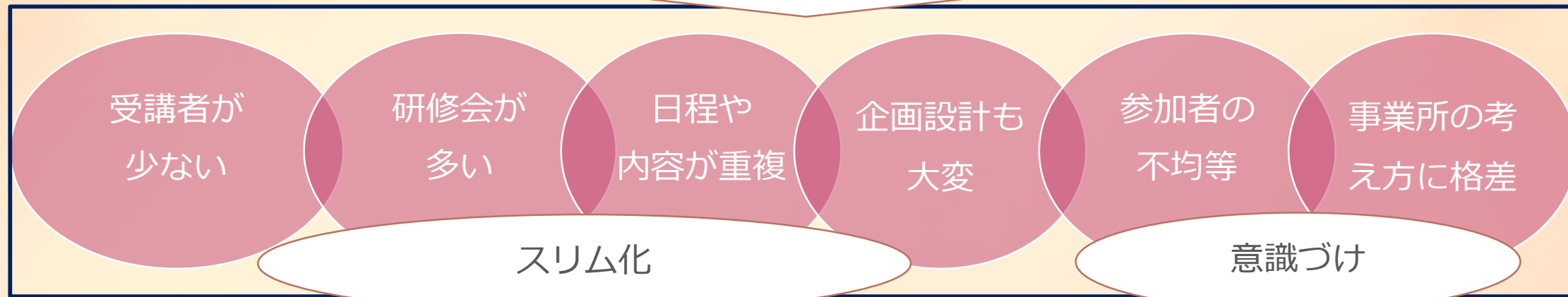
« 相談からみえてきた課題 »

- 各協議会等では資源情報を製本化し配布されているが、当センターでは行政の報告を受けて、HPの資源情報を月1回、更新している。最新で正確な情報を提供しているため情報の一本化ができないか
- 相談は高齢者に限らず障害や小児、難病など多岐に渡る
- 構成団体（歯科医師会・薬剤師会など）との連携がまだまだ不十分なため、情報交換の必要性がある
- …次年度から支援センターの定例会議に構成団体の出席を促す
- 高齢者の相談は地域包括支援センターが窓口になっているが、医療的課題など窓口で完結できているか実態は不明。
地域包括支援センターとのコラボが必要…次年度懇談会を計画

(力) 医療・介護関係者の研修

日時	研修名	対象	内容	講師	参加数
6月21日 (木) 14～16	意思決定支援 基礎編	ケア マネ	ケアマネ対象の意思決定支援アンケート結果をベースに今後望まれる支援について話し合う。人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドライン改正について情報提供。	長浜市立湖北病院 海津 千津子氏 長浜保健所 貝沼 亜希乃氏	30人
7月27日 (金) 14～16	意思決定支援 応用編	ケア マネ	透析を拒否されている患者さんに対してロールプレイを通して、本人の意思を尊重した合意形成のプロセスを学ぶ。また、アイスブレイクのペーパーチェーン合戦では、繰り返すことで役割分担が明確になりチーム連携を体感する。	岐阜県北西部地域医療 センター 後藤 忠雄先生	16人
9月13日 (木) 16～18	人生の最終段階における救急 医療のあり方	多職種	湖北救急を支える消防や病院から、現状と課題を通じて、人生の最終段階にある患者の救急車搬送について提言された。公を補完する民間救急車の役割や活動についても情報提供。	長浜赤十字病院 中村 誠昌先生 湖北消防本部 川瀬 章氏 かすたねっと 横田 和之氏	58人
10月18日 (木) 18～19:30	介護のための栄養と 食事の勉強会	介護職	要介護者の40%が低栄養の現状も、家族は意味も不安も感じていない。適切な栄養と運動の相乗効果で筋量・筋力アップに繋がること、同じカロリーでも食品や食べる順序に注意喚起することで高血糖にならないなど食に対する知識や組み立て方を受講。	管理栄養士 東森佳子氏	40人
3月5日 (火) 18:30～20	明日から使える薬の イロハ	介護職	最新の薬剤管理情報などの話題提供後に、服薬支援で困っている事や対策について8グループで協議。各テーブルにファシリテーターとして薬剤師を配置。薬剤師さんへの垣根の払拭や薬情報の指導を受け研修効果が伺えた。ワークの中で介護職が見守りをする中、飲みこぼし等から服薬が不十分な実態も分かった。服薬のタイミングを見届けるのは準備するだけでなく介護職の働きが最期の砦になると感じた。	湖北薬剤師会プレゼン テーションチーム 川村 和香奈氏 竹下 裕基氏	54人
3月22日 (金) 18～19:30	何故そんなことをするの？ 認知症の方の行動とその対応	多職種	講師の先生の話術も加わり活気的な研修会が実施できた。認知症の周辺症状を引き起こしたり、症状を進行させない為には相手の心を理解し安心させ環境を整えることが大切という事を理解した。現象だけで困った利用者さんと捉えず、できることやどの部分ができないかをアセスメントし適切な交わりの必要性を感じて貰えた。	(株) きらめき介護塾 渡辺哲弘先生	84人

湖北圏域研修課題



【研修目的の力点】を何処に置くか➡当センターは（1・2）を目的に研修会を企画

（1）個人の変化（個人の成長や行動変化）

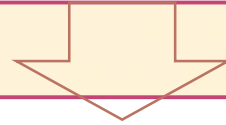
（2）関係性の変化（相手の背景を理解し相互にリーダーシップ）

（3）組織風土の変化（研修で人が成長する風土づくり・組織風土の変革）

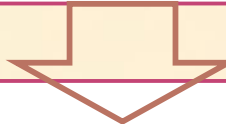
31年度の研修内容を把握…アンケート調査
各団体構成員による代表者会議で情報共有（次年度初）
※各種会議・研修会開催情報の一元的把握・カレンダーで共有

介護サービス事業所協議会：小規模多機能・グループホーム部会から「看取りケア」について講師依頼

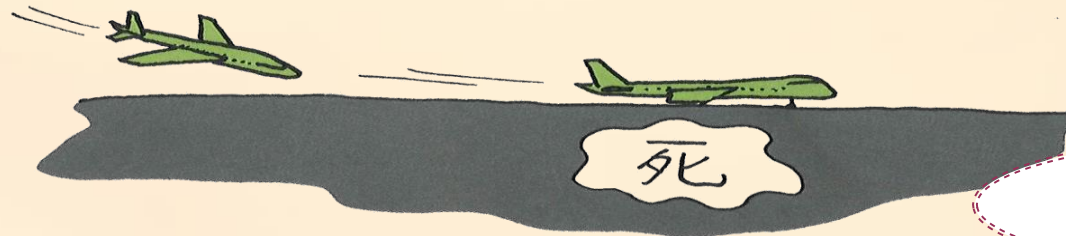
出前講座の「もしバナゲーム」と同様、人生の最終段階の医療やケアについて、選択した項目とその理由についてシンキングペアの方式で全体共有 ➡30分。講義・質疑➡60分、全体で90分の指導案を作成



介護事業所の施設内研修として同内容で、出前講座の依頼：2件



このことを機会に「看取りケア」を施設向け出前講座として位置づけ
介護スタッフは自身に置き換えて考える事で、利用者さん・ご家族の想いに寄り添い、且つ自信を持ってケアできるのではないか



死への軟着陸

(キ) 地域住民への普及啓発では

(1) 出前講座

- 講座形式では「自分事」として意識づけに乏しい ➡他人事

(2) 在宅医療カフェ

- 「住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らしたい」をテーマに、平成26年から年4回／（計14回）湖北圏域の中学校区に出向き、地域住民と専門職の話し合いを進めてきた。家族間を含め地域交流の希薄や高齢者問題が主流で地域づくりに特化した内容になった ➡在宅医療に関する付加価値が乏しい

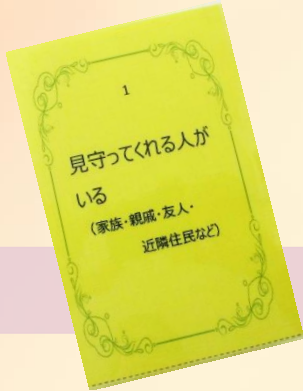
(3) 地域医療福祉フォーラム

- 市民講座 1回／年

※他人事を自分事として考え「いざという時」に役立つにはどうすればよいか？

そこで
(1・2)の反省から
出前講座のやり方を
再考すると

同時期に、人生の最終段階における
医療の決定プロセスに関するガイド
ライン改正やACP概念が話題に！



亀田総合病院監修の「もしバナゲーム」がヒット

資料を確認 ➡ 湖北の実情に合わせた内容にアレンジ

戦略：ゲーム感覚で楽しく、且つ真剣に！

考える（選択） ➡ 文字化（ワークシート） ➡ 言語化（発言） ➡ 他意見を聞く

目標：人生の最終段階の医療や介護を自分事として積極的に考えられる

考える ➡ 文字に落とす ➡ 言語化（発言）

出前講座：第2弾「もしバナゲームをしませんか」として広報



◆アウトカム◆

これからすべきこと（行動）が明確になり「もしもの時」の判断に役立つ

ゲーム前に
ワークシート
記入

重要カード
3枚を選択

順番を
つける

選択理由を
話す

ゲーム後、
ワークシート
に記入

全体共有

人生の最終段階の医療等について現在の思いを記入



自分事として考える



これまでの経験から、一歩踏み込んで優先順位やその理由を考える



自分にとって大切な事を整理し認識できる



ゲームを振り返り文字化する事で認識が確実になる



他の意見を聞く事で自身の価値観が広がる

出前講座集計

項目	回数	参加数	備考
(第1弾) 住み慣れた地域で自分らしく暮らすために	6回	187人	
(第2弾) もしバナゲームをしませんか	9回	158人	11月23日 在宅医療セミナー アイスブレイクで専門職対象に 「もしバナゲーム」を実施 260人参加
介護事業所対象研修（看取りケア）	3回	62人	「ゲームを通して、終末 についての「気付き」を 「もしバナゲーム」で終末期に「気付き」 
合計	17回	407人 + 260人	



自分自身のあり方は？

「もしバナゲーム」で終末期に“気付き”



もしバナゲームを体験する参加者（宮司東町会議所で

「ゲームをして、終末地についての『気付き』を援センターの出前講座がドゲームを通して、自分自身のある方について

考えた。

同センターが導入しているもの、ハゲームは千葉県・亀田総合病院、千原市・三枝の5枚の間に死を迎えるのを防ぐに、自宅で最期を迎える「身元整理」ができて、「私」の想いを聴いてくれる誰かがいる。など、自分分がもしもの時にならな場合を連想するキーワードが書かれている。

参加者で配られた札のうち分が望む礼を交換3枚位を選び出し、その中で順位の。

この日は同センターと長浜市契補健協職員がリタと分かれ、このグループに分かれゲーム紹介の札をスベパーに紹介すると、スベパーに選んだ理由を順番に話した。見守つてくれた人を選んだ男性は、おの

滋賀夕刊

発行所
〒526-0031
滋賀県長浜市八幡東町245
滋賀夕刊新聞社
発行人 柳谷洋司

本 社
滋賀県長浜市八幡東町245
TEL(0749)62-2219代
FAX(0749)62-4483

彦根支局
滋賀県彦根市中央町7-4
TEL(0749)26-1888代
FAX(0749)26-1816

長浜・東浅井共通版

第9回

地域医療福祉フォーラム2018

参加無料
定員300人

日時 平成31年1月12日(土)
13:00～16:00(受付12:30～)

会場 長浜文化芸術会館
滋賀県長浜市大島町37番地

「看取り」の経験を語る会 最期まで自分らしく暮らすために

プログラム

開会あいさつ 13:00～13:15

第1部 基調講演 13:15～14:45

人生の終わりを一緒に考えませんか
《講師》 医療法人社団裕和会 理事長
長尾クリニック 院長 長尾和宏 先生

第2部 シンポジウム 15:00～16:00

自宅で看取りをされたご家族や関係者からお話を伺います
～家族と共に自宅で最期を迎えたい～
シンポジスト：ご家族・かかりつけ医・訪問看護師・
ケアマネジャー・訪問入浴介護



講師プロフィール

東京区大卒。大塚大第二内科入局。平成7年、
長尾市で「長尾クリニック」を開業。外来診療
から在宅医療まで「人を助ける」総合診療を目指す。
「平癒死・10の条件」、「死のやめどき」、「癒く
ない死に方」はいずれもベストセラー、最新刊「男
の孤独死」、「癒い在宅死」は発売即重版、他書
数多数。医学書「スーパー総合診療」全10巻
の総編集など。日本慢性期医療協会 理事、日本
尊厳死協会 副理事長、日本ホスピス在宅ケア研
究会 理事、関西医科大学 客員教授、医学博士。

- 電話またはFAXにて事前に参加申込をお願いします
- 申し込み・お問い合わせ先 長浜米原地域医療支援センター TEL/FAX65-2755
- 締め切り 平成31年1月7日まで
- 豊公園駐車場をご利用される場合は、駐車券の無料処理を行います。会場までお持ちください

主催：長浜米原地域医療支援センター 共催：長浜市・米原市・滋賀県長浜保健所
長浜米原地域医療支援センターは、湖北医師会・湖北歯科医師会・湖北薬剤師会・滋賀県訪問看護ステーション連絡協議会第6地区支部で構成されています

「看取り」の経験を語る会

日時：平成31年1月12日（土）

会場：長浜文化芸術会館

プログラム

- 13:00～13:15 開会あいさつ
- 13:15～14:45 第1部：基調講演
人生の終わりを一緒に考えませんか
講師 長尾クリニック 長尾和宏先生
- 14:45～15:00 休憩
- 15:00～16:00 第2部：シンポジウム
～看取り経験を語る会～
最期まで自分らしく暮らすために
ご家族・ケアマネジャー・訪問看護師
訪問入浴介護・在宅医
- 16:00 閉会

本フォーラムは、勇美記念財団の助成を受け開催しています。
エンディングノート・暮らしの健康手帳・在宅医療を知っていますかのDVD
アンケートは勇美記念財団から提供して頂いています。ご活用ください。

アンケートにご協力ください。

今年度は、勇美記念財団から助成を頂き、「看取りの経験を語る会」と題し基調講演とシンポジウムを開催しました。参加者は207人で、高齢者の方にはたくさんお越しいただきました。（アンケートでは70歳以上が43%）

第1部の長尾和宏先生の講演では「先生の話参考にこれからの自分の人生を考えてみたい」「自分の家族やつながりのある人と話しておくことが大切だと気付いた」「無理せず自然をありのままに受け止め、枯れるように終末期を迎え、神様のお迎えを待ちたい」などたくさんのご感想を頂きました。

「人生の終わりを一緒に考えませんか」というテーマですが、これからの人生の終わりを自分事として、考えて頂けたようです。

第2部シンポジウムでは、自宅看取りの経験を2例、ケアマジャー訪問看護・訪問入浴・在宅医から、関わる専門職の連携やご本人の意思決定、緊急時の救急車通報の意味は？等、人生の最終段階にあるご本人やご家族に、其々の職種の役割と在宅でできる事、療養者さんの反応などお話いただきました。ご本人・ご家族の意思決定に関与し、多職種が同じ方向で関わる為には、ICTを活用して迅速で正確な情報連携によって、離れていても安心のケアを届けて頂けるのではないのでしょうか。



人生の最終段階において あなたにとって大切な事を考えてみませんか

湖北地域に在住の方へ、出前講座第2弾のお知らせ

「いざという時」ご自身の意向が伝えられないことが多く、事前に考えてあなたの意思を信頼する方に伝えておく事は大切です。

タブーになりがちな内容を、ゲーム感覚で考え、文字化し話し合う事で人生の最終段階の医療や介護について「自分はどうかしたいか」を考えて整理します。



～もしバナゲーム～

いざという時の判断に役立つ為に

あなたにとって
大切なカード
3枚を選択します

選んだ理由を
グループの中で
共有します

他の方の意見を
参考に自身の価値観を
広げましょう

湖北地域在勤の医療介護福祉関係者の方へ

日々の業務やあなたの経験から、人生の最終段階の医療やケアについて

「どのようにして欲しいか」を自身で考えて、お隣さんとシェアしましょう。

自身に置き換えることで利用者さまの気持ちに寄り添うことができます。

自分にして欲しくない事はきっと誰にとっても嫌なものです。

また、「看取りケアとは何か」を学習する事で、自信をもって利用者様やご家族の不安にも寄り添うことができます。

当センターでは、施設に赴いて「看取りケア」について一緒に考える講座を開催しています。



- 講座開催にかかる費用は無料です
- 当センターで作成したエンディングノートなど資料を配布します
- 講座にかかる備品は持参します

お申し込みは
長浜米原地域医療支援センターへ
TEL/FAX 65-2755

在宅医療・介護の 啓発グッズ

見てわかる 在宅医療 & 在宅介護

命と暮らしを支える支援の受け方



長浜米原地域医療支援センター

地域住民対象に「もしバナゲーム」と、介護スタッフ対象に「看取りケア」の出前講座用チラシを作成し広報しています